

# ICT教育事例紹介

## 長野で教員向けシンポ

デジタル教科書やタブレット端末など情報通信技術（ICT）を活用した教育について学ぶシンポジウムが十六日、長野市鶴賀高畑のホテルであり、県内の市町村教育委員会の

担当者や教員ら約百五十人が参加した。ICTを取り入れた教育を推進する総務省の最先機関の信越総合通信局などが主催した。デジタル教育に詳しい慶応大大学院の中



デジタル教育の重要性を語る中村教授。長野市内で

村伊知哉教授が韓国やウルグアイなど外国の取り組みを例に、「日本はかなり遅れている。議論する段階は既に終わっており、実行する時期だ」と話した。

また、上越教育大の清水雅之特任准教授は、文部科学省のモデル校に指定され、全児童にタブレット端末が配られた長野市の塩崎小学校の取り組みを紹介した。

理科の時間に、動画をとり入れたデジタル図鑑で実際に見ることをできない昆虫の動きを観察した例を挙げ、「子どもの学習意欲を

高めるメリットがある」と主張。児童が感想などをタブレット端末に書き込んだ瞬間に、クラス全体で情報共有ができるため、「自分の意見を発表する機会が増す」と話した。

一方、市としてICTを推進している大阪市の担当者は「デジタル教材を使うことが目的化しては意味がない。子どもたちの思考力や主体性など、効果の有無を検証する授業評価の導入が必要だ」と課題を挙げた。

(武藤周吉)